

生き方を変えた“光”との出会い

ウィン・パロックは幼少の頃より歌の才能を発揮します。高校生の頃からプロのテノール歌手として舞台に立ち、視覚芸術との出会いは音楽を学ぶために滞在したパリでした。光の特性をキャンバスに表現する印象派の画家に刺激を受け、マン・レイ、ラズロ・モホリ・ナギの写真作品に魅了され、趣味として写真を撮り始めたのです。

30代半ばにして生涯の仕事として写真を学び、商業写真家として生計を立てる一方、実験的な作品の制作や、ソラリゼーション技法の研究を進めます。しかし写真家エドワード・ウェストンと出会い、その作品に衝撃を受けると実験的イメージをやめ、ストレートな写真を撮るようになります。

高い技術で美しく焼き付けられた作品はアメリカ国内外で好評を博し、1956年にワシントンD.C.へ巡回した展覧会「人間家族 (The Family of Man)」では、パロックの作品「そこに光あれ (Let There Be Light) 1954年」が6万5千人の観客によるアンケートで最も好きな写真に選ばれています。

今回はウィン・パロック自身が制作したヴィンテージ・プリントを中心とした構成で、代表作を紹介いたします。



Portrait of Wynne Bullock, 1961.
© John Murray. All rights reserved.

ウィン・パロック [1902-1975]

本名 Percy Wingfield Bullock。イリノイ州シカゴにて生まれ、カリフォルニア州サウス・パサデナで幼少期を過ごす。ニューヨークにて正式に歌を学び、1928年、歌手としてパリに滞在。視覚芸術と出会う。1940年、ロサンゼルス・カウンティ美術館にて初の個展。1957年以降、国内外の写真家協会・写真サロンから受賞多数。



東京ミッドタウン・ウェスト 1F Tokyo Midtown West, 1F

アクセス
東京メトロ日比谷線「六本木駅」…4a出口より徒歩5分
または地下通路にて直結
都営大江戸線「六本木駅」……………8番出口と直結
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」…3番出口より徒歩5分

入館無料
開館時間 10:00~19:00 無休(年末年始を除く)
入館は18:50まで
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
TEL: 03-6271-3350 (10:00~18:50)



ケータイはこちらから

フジフィルム スクエア

検索

Access
• 5 minutes walk from Roppongi Station on the Hibiya Line (Exit 4a)
(direct underground walkway to Tokyo Midtown available)
• Directly linked to Roppongi Station on the Oedo Line by exit 8
• 5 minutes walk from Nogizaka Station on the Chiyoda Line (Exit 3)

Free entry
10:00-19:00 Open every day (except during FUJIFILM's New Year's break)
Entrance permitted until 18:50
7-3 Akasaka, 9-chome, Minato-ku, Tokyo,
107-0052, Japan (Tokyo Midtown)
TEL: 03-6271-3350 (10:00~18:50)

URL : fujifilmsquare.jp

富士フィルム株式会社
FUJIFILM Corporation

©The illustrations are images and may not represent actual conditions.

2013.12

FUJIFILM SQUARE



富士フィルム 写真歴史博物館企画写真展
—a photo exhibition by
ウィン・パロック
作品展

Wynn
Bullock
光に魅せられた写真家
a Fascination with Light

会期 2014年1月3日(木)~3月31日(日) 会期中無休

開館 10:00~19:00 入館は18時50分まで

主催 富士フィルム株式会社 協賛 東京フォトアートミュージアム 企画 フレグリス

写真 | 光の道をあゆみ子ども 1958
© 2013 FUJIFILM Corporation. All rights reserved.

—a photo exhibition by ウィン・バロック 作品展

Wynn Bullock

光に魅せられた写真家
a Fascination with Light

バロックは光がすべての命を支配すると考え、現実に見えるものは全て、何らかの形の放射エネルギーだと捉えていました。身近な自然や物に目を向ける行為は、そこに宿る神秘への興味と、謎に包まれた光への探求でした。その視線は自然にあるものだけでなく、古い家や道具といった人工物にも向けられ、やがて全てが自然に還ることや人間が自然に内包されていることを感じさせます。

バロックにとって光を写し撮り、思い通りに紙に焼き付ける写真は、生命の謎へ迫る手段であり、現実への理解を深め思想を表現するのに最も適したメディアだったのです。



a | クリスマス、サンディの家にて 1956 b | そこに光あれ 1954
c | 女性の手 1956 d | 丸太とトクサ 1957
© 2012/2014 Wynn Bullock Family Photography LLC. All rights reserved.



神秘は私たちを取り巻く
あらゆるものに潜んでいる。
最も身近なものの中にさえ存在して、
ひらすら気づかれることを
待ち望んでいる。

—ウィン・バロック

「光がおそらくこの宇宙で最も深遠な真実ではないだろうか」という信念を持っていたバロックは、見て感じたものをそのまま表現するための研究も重要な課題としていました。極端な長時間露光、多重露光、反転など様々なテクニックを駆使し、表面的な光だけでなく、対象の奥深くにある真実を喚起させる方法を追求しました。

職人的とも言える研究と制作から生まれたモノクローム・プリントは重厚な黒が対象を精緻に写し出し、独特のリアリズムが具現されています。

